平成18年深谷市議会第1回臨時会開催

平成18年深谷市議会第1回臨時会が、1月17日に市役所本庁舎の議場で開催されました。

この臨時会では、報告27件が審議され、いずれも承認されました。

また、議会の冒頭に正副議長の選挙が行われ、議長には北本政夫氏が、副議長には須藤邦男氏が選出されました。

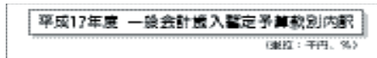
主な議案

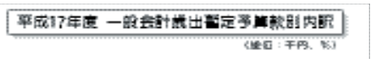
■専決処分の承認を求めることについて（平成17年度深谷市一般会計暫定予算）

歳入歳出それぞれ141億4，444万円とします。

副議長
須藤邦男氏

議長
北本政夫氏





おわびと訂正

広報ふかや1月号の13ページに掲載した「市・県民税の非課税限度額」に誤りがありました。おわびして訂正します。　**問い合わせ**　市民税課（☎574―6637）へ

訂正前

※1　市・県民税は、均等割・所得割それぞれに非課税限度額が設けられています。前年の合計所得がこの金額以下であれば、非課税となります

	扶養している人がいない場合		扶養している人がいる場合
均等割非課税限度額	所得：28万円	（給与収入：93万円） （年金収入：148万円）	28万円×（扶養人数＋1）＋17．6万円
所得割非課税限度額	所得：35万円	（給与収入：100万円） （給与収入：155万円）	35万円×（扶養人数＋1）＋35万円

訂正後

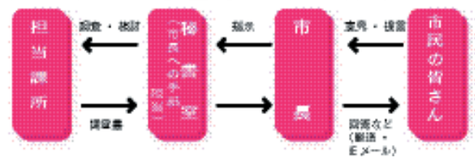
※1　市・県民税は、均等割・所得割それぞれに非課税限度額が設けられています。前年の合計所得がこの金額以下であれば、非課税となります

	扶養している人がいない場合			扶養している人がいる場合
均等割非課税限度額	所得：28万円	（給与収入：93万円）	すべてのかた	28万円×（扶養人数＋1）＋17．6万円
		（年金収入：98万円）	65歳未満のかた	
		（年金収入：148万円）	65歳以上のかた	
所得割非課税限度額	所得：35万円	（給与収入：100万円）	すべてのかた	35万円×（扶養人数＋1）＋35万円
		（年金収入：105万円）	65歳未満のかた	
		（年金収入：155万円）	65歳以上のかた	

市長への手紙

市長への手紙にお寄せいただいたご意見やご提言は、下のような手順で調査や検討をしています。

※市長への手紙は、手紙、ファクシミリ、電子メールにより受け付けています。市内公共施設に専用の用紙と封筒を設置しているほか、市役所本庁舎と各総合支所には、ご意見箱も設置しています



手紙　〒366－8501
深谷市仲町11－1
深谷市長あて

☎574－1300

https://www.city.fukaya.saitama.jp/hisyositu/form.html

図書館へ行こう

■深谷市立図書館■

【おはなし会】

小さいお子さんのために、昔話や絵本の読み聞かせなどを毎月行っています。ご家族でお出掛けください。

とき　2月25日(土)午前10時30分～

ところ　深谷市立図書館3階郷土資料展示室

主催と問い合わせ　深谷市立図書館（☎571―8210）へ

■花園こども情報交流図書館（アクロス）■

【おはなし玉手箱（おはなし会）】

すてきな絵本が皆さんを待っています。

とき　毎週土・日曜午後3時～

ところ　アクロスおはなしのへや

対象　幼児・児童・親子

主催と問い合わせ　アクロス（☎579―1333）へ

■図書館休館日（4館共通）■

【2月】
6日(月)・13日(月)・20日(月)・27日(月)・28日(火)

【3月】
6日(月)・13日(月)・20日(月)・22日(水)・27日(月)・31日(金)

http://www.lib.city.fukaya.saitama.jp/

写真は昨年12月の深谷市立図書館のおはなし会の様子です

渋沢栄一物語②

渋沢栄一翁の平和思想に学ぶ

日清・日露戦争に勝利したものの、戦後の政治や社会の混乱に心を痛めた渋沢翁は、戦争のない世界を作ろうと様々な努力をしました。植民地争奪戦の第一次世界大戦が終わり、講和条約の締結と同時に、アメリカのウィルソン大統領の提唱による国際連盟（国際連合の前身）が成立したとき、翁は加盟国が「紛争の処理を戦争に訴えない義務を持つ」連盟を大歓迎します。そして各国に国際連盟を支援する民間組織である国際連盟協会が結成されると、直ちに同志の人たちと相談して「日本国際連盟協会」を作ります。推されて会長に就任し、終生その中心となって活動しました。ここで大正10年、82歳の翁が全国商業会議所連合会で、国際連盟協会への加入を呼びかけたときの演説速記録をのぞいてみます。

翁は自ら「私は平和論者であります」と前置きして、武力によって他国を制圧することに反対し、日清・日露戦争を「忌まわしい戦争だ」として「戦争を喜ぶということは人類のもっとも恥ずべきことである」と言います。また戦争をしないためには「軍艦を造るよりも、台場を築くよりも、飛行機よりも、潜水艇よりも、国際連盟が必要である」と述べます。さらに軍国主義化する政府の外交方針を厳しく批判し、中国問題では「山東省の処分および漢口の駐屯兵の廃止を早くなさらぬと、中国の日本人排斥はいつまでも続く」と警告しました。最後に現在の我が国が「甚だ憂慮すべき」状況にあり、政府や霞ケ関だけに外交を任せられないと言い、国際連盟が「完全なる機関となるよう」「我々国民の奮発すべき時機到来」したので、この協会への参加は「諸君の義務」ではないかとも述べました。

翁と同志の人たちは「軍国主義へ向かう政治を阻止し、平和友好の道を懸命に追求したのです。翁の発言は現代の国際政治やこの国の行方に重要な示唆を与えています。**（文・小林敏男さん）**